

おおたとしまさ氏が
その意図を探る!

海城で 新講座「KSプロジェクト」始動!

四半世紀も前から
時代を先取りした改革に着手

「ただの進学校になってはいけ
ない」。そういう危機感が海城にはあり
ました。
生徒たちのおしりを叩けばそこそ
この大学に押し込むことはできる。それ
で進学校としての実績をつくることは
できる。しかしそれが本当にこれから
の時代を生きる若者のための教育なの
か。侃々諤々の議論の末、海城は創立
101年目にあたる1992年、「学
校改革」という果てしない「航海」に
出ることを決意しました。

海城は1891年「海軍予備校」と
して創設されました。建学の精神は「国
家・社会に有為な人材の育成」。

1945年の終戦後、海軍を背景と
していた性格を捨て去り、リベラルの
立場を選びます。校章も変えました。
それが現在の校章「KSマーク」です。
Kの縦軸は船の帆を、Sの曲線は帆を
たわませ船を前へと押し進める柔らか
な海風をかたどっています。そして、
それぞれがこれから社会へと果立つ
「生徒」と彼らに寄り添い柔軟に支援

とんがった興味・関心を刺激する 「超高校」レベルの選択制講座

東京都新宿区にある海城中学高等学校は、東大合格者数ランキングトップ10にも名を連ねる人気進学校でありながら、「新しい学力」や「新しい人間力」を育てることを目的としたユニークな教育プログラムを展開している。2017年にはさらに「KSプロジェクト」が始動した。中学校高校の教科の枠を超越した発展的な自律学習のための講座である。準備は約2年もの時間を要した。担当教員にその狙いと手応えについて聞いた。

おおた 海城のスタンダードはほぼど
きあがった。生徒たちの個々の興味・
関心を伸ばすフェーズに入ったとい
うことですね。

内田 プロジェクトの設計に際しては
大きく3つの狙いを意識しました。1
つめは、生徒が生涯にわたって主体的
に学び続ける姿勢を涵養すること。2
つめは、生徒がどんな教科の枠組み
や学校の枠組みを飛び出していきけるよ
うにすること。3つめは副次的なもの

ですが、2020年度以降の大学入試
改革への対応です。
おおた 3つめの大学入試改革への対
応というのは、「KSプロジェクト」
での取り組みが結果的に、改革以降の
大学入試において必要となる高校3年
間での多様な学習活動の履歴として利
用できるということですね。

内田 はい。そのために、生徒それぞ
れが「KSプロジェクト」を含めた
多様な学習履歴を記録に残すしくみを
構築して、すでに試行的に運用を始め
ています。
おおた 「KSプロジェクト」を選択
制にした意図を教えてください。

石塚 「KSプロジェクト」は、あく
までも生徒の主体的な興味・関心を刺
激することを目的としています。必修
にしてしまったとたん、生徒たちが受
け身になってしまいう可能性がありま
す。一部の生徒だけでも受け身になっ
てしまったら、プログラム全体として
高い意欲や強い関心を維持することが
難しくなるだろうと考えました。ゆく
ゆくは、既成の枠にとらわれない大胆
な発想で、生徒も先生も一緒にワクワ
クできるような講座が多数開設され

らしいな、と思います。そうすれば、
自分の興味関心に基づいて講座に参加
する生徒がさらに増えるでしょう。
おおた いま注目の「プログラミング
講座」をはじめ、「総
合フィールド演習」
や「模擬裁判」など、
さまざまなテーマの
講座があります。対
象学年も幅広い。
内田 「なんでもあ
り」が「KSプロジェ
クト」のコンセプト
です。ただし講座内
容設計に際して一つ
だけ条件がありま
す。それは「学校の
中だけで完結しない
こと」。積極的に学
校の外に出て行くこ
とを推奨し、最低で
も文化祭での発表を
義務づけてました。そ
うすることで、学校
の中だけでは得られ
なかつた偶発的な
発見があり、そのこ

と「ドラマエデュケーション」です。
この2つを経験することで、海城生は
中学生のうちに民主的合意形成、多様
性を受け入れる心構え、相手の立場に
立った意思疎通の仕方などを身につけ
ます。これらの能力を海城では「新し
い人間力」と称し、それをもつ人を「新
しい紳士」ととらえています。
2011年には帰国生入試を開始し
ました。毎日の学校生活が、グローバル
社会におけるダイバーシティ体験の
場になります。2015年にはICT
(情報通信技術)環境を強化しました。
こうして海城は、「新しい学力」「新
しい人間力」「グローバル」「ICT」
と、教科の枠や受験勉強にとらわれな
い実践的な教育を一つひとつ積み上げ
てきました。その結果、大学入試のた
めの教育を行う学校ではなく、広い視
野に立った教育の結果として大学入試
でも高い実績を残すことができる学校
になったのです。

ば、教科の枠を越え
て生徒の興味・関心
を刺激する、「超高
校」レベルの選択制
総合講座です。その
狙いと実践を、課題
学習検討準備委員
の内田玄司教頭と石
塚泰啓教諭に聞きま
した。
内田 海城では習熟
度別のクラス編成は
行いませんし、高1まではほと
んど選択科目がありません。中
高生のうちに最低限身につけて
ほしい教養は文系・理系に関係
なく全員に学んでもらいますし、
リベラルでフェアな精神も中学
生のうちに全員に身につけても
らいます。これらは海城生とし
てのいわば「土台」です。一方で、
突き抜ける学習意欲や関心は、
人それぞれ。個々のとんがった
興味・関心に応えるためのプロ
グラムを用意すべきだろうと考
えたのです。これまでも各教員の判
断で散発的にそのような講座は開かれ
ていたのですが、今回「KSプロジェ



「総合フィールド演習」での大阪遠征。上町台地を歩き、地形、歴史、そこに住む人々の暮らしなどを関係づけ、多角的に考察した。

2017年1学期に開講された「KSプロジェクト講座」

- ◆プログラミング講座(初心者編) 世界を変える第一歩を踏み出そう
プログラミングの基本的な考えを理解して、テクノロジーの可能性を知る講座。発展編ではiPhoneやiPadのアプリの作成にも挑戦。
- ◆総合フィールド演習～人文科学と自然科学から「地域」を考える～
「地域」や「場」がもつ魅力に注目し、文学、歴史、地質など、多角的視点からその全体像を探る講座。実際に現地へ行き、フィールドワークを行う。
- ◆SDGsゼミ～人と自然の共存を考えよう！～
持続可能な社会に向けた取り組みについて、参加者がテーマを決めて調べ、発表し、議論も行う。
- ◆生物・化学実験の動画を撮ろう
単に実験を行うだけでなく、実験の目的や考察を、他の人に理解してもらえるような動画を作り上げていく講座。
- ◆文化祭で模擬裁判(刑事)をやろう!
裁判官や弁護士などの役を分担し、刑事裁判を文化祭で実演する講座。実際の刑事裁判の傍聴なども行う。
- ◆言葉系外部コンテストにチャレンジ
言葉への関心を深め、俳句甲子園、ビブリオバトル(書評合戦)にチャレンジする講座。
※一部は通年で実施。夏休みには特別講座も開講

おおた 興味関心が刺激され、自
ら学ぶとする意欲が引き出され
る。押しつけられる「勉強」では
なく、自ら学ぶ「学問」への転換
ですね。大学への学びにつながる
という意味で、これは海城流の

いる時代ではないと。あえて不確実性
を取り込んだのです。
内田 現在は教員が講座を考え、希望
者を募っていますが、ゆくゆくは生徒
のほうから「こんな講座をやってほ
しい」という声が増えることを期待して
います。
おおた 4月から始まったばかりです
が、これまでのところの手応えはど
うですか。
石塚 生徒たちの反応は上々です。私
は「生物・化学実験の動画を撮ろう」
というプロジェクトを担当しています
が、生徒が自分たちで実験内容を決
めて動画を撮影し、自分たちで編集ま
でやっています。私は一切口出しを
しません。それでも立派な動画が
でき上がりました。生徒たちは、
つくった動画で本校と提携してい
る「新モンゴル学園」(モンゴル)
と交流する予定です。

「高大接続プロジェクト」ともい
えます。
内田 「KSプロジェクト」の一環と
して「俳句甲子園」に挑戦しました。
チームとしては急造なのですが、そ
れでも東京都代表に選ばれて全国大会に
出場できることになりました。2学期
は推薦図書の魅力をプレゼンテーシ
ョンする「ビブリオバトル」に参戦す
る予定です。
おおた もうそんな成果が表れている
のですね。ぜひ今度は実際の授業の様
子を見学させてもらいたいと思いま
す。今日はありがとうございました。



教育ジャーナリスト おおたとしまさ 氏
教育ジャーナリスト。1973年東京生まれ。麻布中学・高校卒業。東京外国語大学中退。上
智大学卒業。リクルートで雑誌編集に携わる。2005年独立後、数々の育児・教育誌のデ
スクや監修を担当。中高の教員免許、私立小学校での教員経験、心理カウンセラーの資格も
ある。著書は「名門校とは何か?」「ルポ塾歴社会」「男子校という選択」など50冊以上。

「高大接続プロジェクト」ともい
えます。
内田 「KSプロジェクト」の一環と
して「俳句甲子園」に挑戦しました。
チームとしては急造なのですが、そ
れでも東京都代表に選ばれて全国大会に
出場できることになりました。2学期
は推薦図書の魅力をプレゼンテーシ
ョンする「ビブリオバトル」に参戦す
る予定です。
おおた もうそんな成果が表れている
のですね。ぜひ今度は実際の授業の様
子を見学させてもらいたいと思いま
す。今日はありがとうございました。



教頭 内田 玄司 先生
中学校第3学年主任(理科教諭) 石塚 泰啓 先生